

## 地域における男女共同参画推進に対する私見

加藤 さゆり

### 1. 現状の把握

- ①コミュニティには、同じ時代を生きていても、価値観や人権意識も異なり、地域固有の文化や歴史をもつ多様な人々が暮らしている。
- ②いま地域社会は、経済格差や過疎化に苦しみ、負のスパイラルから抜け出すことが難しくなっている。
- ③市町村合併により行政圏域は拡大し効率化も促進されたが、自治や共生の部分では課題が残っている。
- ④地域活動の主たる担い手の固定化(女性と高齢者)が顕在化している。→課題:ワークライフバランスの推進、地域政策他。
- ⑤企業の社会的責任(CSR)を促進するために、ステークホルダー(利害関係者)の役割に期待が高まっている。男女共同参画に対すとりくみだけではなく、本業のプロセスを含めて評価していく方向。

### 2. 関係性を築くプロセスとエンパワーメント

- ①生活者の包括的な視点を大切にする。
- ②主体的かつ総合的な地域活動を通して信頼が醸成され、責任感が育まれる。
- ③信頼に基づいた関係性の中で、コミュニティ全体が豊かで安定的なものになる。
- ④価値観の違いを超えてジェンダーの視点を様々な企画・活動にさしこんでいく。
- ⑤多様な人々が協力しあい、よりよい社会システムを追求する。
- ⑥子ども達、若者もまきこみ、地域社会全体にとって何が最良な考えであり仕組みなのか手足を動かして考え発言しながら身につける。そうしたプロセスを通して、自然と社会的な責任感、人権意識をもった市民を育む。
- ⑦強力なリーダーのもとに従うというのではなく、ひとりひとりのもっている資質を生かす視点・機会づくりが大切。

### 3. 今後の課題

- ①男女共同参画推進の要諦は地域にありという認識の共有化!?
- ②男女共同参画の広報・啓発を問い直す →例:シンポジウム等で認知されているのか?
- ③「私たちの」男女共同参画センター(活動拠点施設)と、地域から親しまれる関係性の構築。
- ④行政も企業も、NGO・NPOなど、市民社会とフラットな関係のもと連携・協働する。